

# 読書活動だより.76

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田 53-1  
静岡県立中央図書館内  
TEL 054-262-1246



## 読書推進 45 年に思うこと

静岡県読書推進運動協議会会長  
伊藤 博

令和7年度で「静岡県図書館大会」は32回目となり、全国でもトップクラスの県大会となっています。私が細江町立図書館職員となった平成元年当時、静岡県は県内の図書館振興を意欲的に取り組み、第1回の「静岡県図書館振興大会」を開催するに至り、それ以前から開かれていた県関係機関と中日新聞社共催の「静岡県読書大会」との二つの大会が開催されていました。その後平成4年度に両大会が一つとなり、「静岡県図書館大会」として現在に至っています。

平成3年10月に旧舞阪町で開催された第28回県読書大会のテーマは「着実な読書活動の喜びと心温まる創作への共感」でした。共催者のあいさつでは「幼少期からの良書への出会い、高度情報化、生涯学習時代における読書の持つ意味の重要性」が述べられていました。その良書への出会いの大切さを地域で担っている読書ボランティア・文庫活動など永年にわたり活動されている皆様への表彰も50年以上続いているのです。この間、国は子ども読書活動推進法などの法令を整備し、読書推進を図っていま

す。しかし、その推進の母体は県より市町村に依存している実態もあります。ハード面で混迷している新県立図書館はもとより、ソフト面でのより一層の市町村への読書推進にかかわる財政支援を望みたいものです。新県立図書館の計画は、登山に例えると20年近くの時間と県職員の労力により8合目まで到達していた道のりを、一旦立ち止まって下山し、装備を再考して改めて登ろうとしています。

静岡県の次の時代を担う子どもたちのためにも、図書館の真のあり方を反映した新県立図書館になることを願うこのごろです。



## 社会教育功労者表彰

伊藤博氏は、旧細江町立図書館等の館長、公益信託西川金一・ゆり子図書館助成基金等の運営委員、本協議会会長など長年にわたっての地域における社会教育振興の功労が認められ、令和7年2月28日、文部科学大臣より、社会教育功労者として表彰されました。

### 《内容紹介（もくじ）》

- ◎巻頭言……………1  
静岡県読書推進運動協議会会長 伊藤 博  
祝 社会教育功労者表彰
- ◎令和7年度優良読書グループ紹介……………2  
★(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)  
「富士市学校読み聞かせネットワーク」(富士市)
- ◎静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会報告・4
- ◎静岡県読書推進運動協議会推薦図書……………4
- ★静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)  
「上野小 PTCA 読書サター・トロの森」(富士宮市)
- 「くまさんクラブ」(静岡市)
- 「まきのはらし図書館友の会」(牧之原市)
- 「時間のはこぶね」(河津町)
- 「おはなしの会 ピロシキ」(南伊豆町)
- 「函南町点字グループ」(函南町)

## 令和7年度 優良読書グループ紹介

### (公社)読書推進運動協議会長賞(全国表彰)

#### 【富士市学校読み聞かせネットワーク(富士市)】

富士市学校読み聞かせネットワークは、「富士市内の小中学校で読み聞かせ活動をする各団体が、より質の高い活動をするための連携・情報交換の場としてのネットワーク」として2010年に発足しました。

現在は富士市立中央図書館に協力いただき、運営は静岡県子ども読書アドバイザー16名と富士市内の小中学校で活動する読み聞かせボランティアの会員の皆さんと年3回の例会

(勉強会)を行っています。勉強会では、役員が講師となり読み聞かせの基本(本の持ち方・読み方・発声について)や選書では(学年別・科学本などの種類別・読み比べなど)絵本の読み聞かせや語りを役員の実演などで紹介しています。人の読み聞かせを聞くこと、本の持ち方や発声などの実践で能動的な勉強に、グループトークでの意見交換で他校と交流の場となっています。情報は各団体へ持ち帰り共有することで、よりよい読み聞かせの時間になると期待しています。

2023年度より「読み聞かせ勉強会」年9回を開講、松岡享子さん著「えほんのせかいこどものせかい」をテキストに富士市内で読み聞かせの活動をしている方、興味のある方へ読み聞かせの基本を伝えています。

「例会」「読み聞かせ勉強会」の参加が増えていることに読み聞かせへ関心をよせていることがわかります。今後も参加して下さる皆さんと研鑽し各学校で子どもたちにお話を届けていきます。



### 静岡県読書推進運動協議会長賞(県表彰)

#### 【上野小 PTCA 読書サポーター・トトロの森(富士宮市)】

上野小 PTCA 読書サポーター・トトロの森は、1988年に発足し活動37周年となるボランティア団体で、今年度の会員数は24名です。

私たちは読み聞かせや学級文庫および学校図書館の充実と整備をはかることで、上野小学校の子どもたちが豊かな読書体験を通じて健やかに心を育むお手伝いをしています。

いつも活動を理解しご協力くださる上野小の皆様、篤くご支援くださる日蓮正宗総本山大石寺様、これまでトトロの森に参加し繋いでくれた歴代のメンバーに深く感謝いたします。

この表彰を励みに、これからも富士宮市読書と読み聞かせ推進事業で学びを深め、保護者・学校・地域で連携して、子どもたちにたのしいおはなしのひとときを届けます。



#### 【くまさんクラブ(静岡市)】

私達は平成14年、図書館の個人ボランティアの第1期生として出会い、平成22年に発足、現在は4名で活動しています。

図書館で開かれている赤ちゃん向けおはなし会「おはなしコアラ」を主に活動しています。

振り返れば15年、メンバーも熟年から高齢へと向かう中で介護や孫育ての手助けをしながら、なかなか会う機会の少ない中で自己研鑽し、あたたかく楽しいおはなし会になるように努めています。メンバーそれぞれの持つ雰囲気大切に、読み聞かせの世界を作っていくことが目標です。

おはなし会に来てくださるみなさんとの素敵な出会いとみなさんが笑顔で帰っていただけるように、そして絵本の楽しさを知っていただけるようにメンバー同心掛けていきたいと思えます。



### 【まきのはらし図書館友の会（牧之原市）】

まきのはらし図書館友の会は、地元図書館と良好な関係を築きながら応援活動を続けています。会員は本好きで、おはなし会や図書ボランティアなどを通じて図書館の魅力を広めています。

図書館は過去を探り、未来を描き、今を生きる力を与えてくれる場所です。多くの人がある魅力に触れ、世界への視野を広げてほしいと願っています。

設立以来、図書館のPRや図書館協議会の設置などを提案してきましたが、牧之原市立図書館の整備拡張に伴い、活動内容の見直しも必要です。今後も適切な距離を保ちつつ、図書館を支える活動を続けていきます。



### 【時間のはこぶね おはなし会（河津町）】

私達は「小学生だからこそ読み聞かせ」を合言葉に小学生だからこそ読んでほしい、心を動かす力のある絵本、夢の世界への希望がもてる絵本、ナンセンスな世界の面白さを味わえる絵本など、季節や子どもたちの生活に合わせ絵本を選び、毎週読み聞かせをしています。

小学生の時期は本の持つ力を素直に受け止め、生かせる大切な時期です。その大切な時期に、本の持つ魅力にどっぷり浸かってほしいと私達は願っています。

そして、もう一つの役割は、子どもたちの安心安全な居場所としての存在です。ここに行けば、自分を受け入れてくれる誰かがいる。ちょっと行ってみようかな？と思えるそのような場所（人）として、これからも活動を続けていきます。



### 【おはなしの会 ピロシキ（南伊豆町）】

子供達が絵本を通して心豊かに育ってくれる事を願って活動している読み聞かせのボランティアグループです。南伊豆を拠点とし、今年で発足25年。活動内容は、子供向けの公演会、クリスマス会、各小学校での春と秋のお話し会を行っています。読み聞かせだけでなく、エプロンシアターやパネルシアター、またピアノの生演奏と共に朗読をするスクリーンシアターも特色の一つです。

活動を続けていく中で絵本や童話は、子供だけのものだけでなく、大人の心にも深く響くすばらしいものが沢山ある事を実感し、多くの方にこの世界を知ってもらいたくて15年程前から大人向けの公演会も行っています。ワクワクする気持ちを大切に今後も続けていきます。



### 【函南町点字グループ（函南町）】

私達函南町点字グループは、現在7名で活動しています。

主に小学校の福祉授業、視覚障害者の方から依頼の文書の点訳、又選挙の時に候補者の資料作成等で、町にも協力しています。広報も点訳しています。又函南町立図書館に点訳本50巻以上納入させていただき27回の貸出実績もあります。

月1回の定例会で、点訳の技術向上と勉強に取り組んでいます。

又小学校のクラブ活動も今年で12年になり、「難しかったけど打つのが楽しかった」「点字の決まりを知れて良い経験になった」「家でもやってみよう」との小学生の声や、手が痛くなったと言いながらも真剣に点字を打つ姿に、私達もやりがいを感じています。

各種行事やイベントにも積極的に参加し、点字の紹介をしています。



## 静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会報告

**演題** 月刊「たくさんのふしぎ」の40年  
～世界は「ふしぎ」にみちている～

**講師** 石田栄吾氏  
(株式会社福音館書店 編集部)

**会場** 静岡県立中央図書館会議室

**日時** 令和8年2月14日(土)13:30～15:30

**参加者** 84名

今年の全体研修会は、(株)福音館書店編集部の石田栄吾氏をお招きしました。氏は1990年に(株)福音館書店に入社、現在、「たくさんのふしぎ」編集長に就かれています。

同誌は1985年の創刊以来「おもしろいかどうか」を編集方針として掲げており、これは松居直の「絵本は子どもの楽しみのためにある」という考え方に基づいています。

ご講演では氏が手掛けられた『南極の生きものたち』『神々の花園』など多くの作品を例に、科学絵本の奥深さについて説かれました。題材は、自然科学系を中心として人文科学や社会科学の分野に及んでおり、年間12冊のうち1冊は外国の人たちの暮らしに根付いた内容とのこと。

また、物語絵本が言葉を憶えたり想像力を働かせたり、子どもの内なる力を養っていく

なかで幸せを感じるように、科学絵本は子どもが身の回りのことを肯定的に知っていく過程で、先人たちの知恵や思いやりを伝えていくことによってこの世界もなかなか良いところだよ、という気持ちが育まれるのではないかとのことでした。

最後に紹介された静岡ゆかりの作品『一郎くんの写真』では、一篇の新聞記事からヒントを得て作品として上梓されるまでの過程に、編集者は第二の作者であることを実感した講演会でした。

(静岡県読書推進運動協議会理事

静岡県読み聞かせネットワーク会長 勝山高)



## 静岡県読書推進運動協議会推薦図書

### シニア世代へのおすすめする本

『和田式 老けないテレビの見方、  
ボケない新聞の読み方』  
和田秀樹/著(白秋社 2024.7)

『自分の感受性くらい』  
茨木のり子/著(岩波書店 2025.4)

『南天の花 神田職人えにし譚』  
知野みさき/著(角川春樹事務所 2025.2)

### 若い人へおすすめする本

『天下の値段 享保のデリバティブ』  
門井慶喜/著(文藝春秋 2025.8)

『命の燃やし方』  
鈴木大飛/著(講談社 2025.8)

『失敗の本質-  
日本軍の組織論的研究』改版  
戸部良一/著ほか(中公文庫 2024.12)